

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

61年8月現在 会員数
逗子地区 168名
葉山地区 286名
大船地区 62名
(合計) (516名)

61年8月号 (169号)
8月発行 者 萃
根岸 岳
編集 者
中村 愛 岳

鎌倉市吟詠連盟 創立記念大会に参加して

岩崎恵岳

古都鎌倉に吟道連盟を作りたいという話
が盛り上がり、各流派の先生方と何度も話
合を重ねた結果、四月一日付でようやく市
の許可を戴く事が出来ました。

早急に会を開いて欲しいという市の要請
で、すぐ手分けをして会場探しに移ったが
仲々思うように行かず困っていた処、たま
たま鎌倉花火大会の日に会場を借りられる
ことになりました。俄然忙しくなり、七月
半ば漸くプロが出来、会場の下見もすませ
其の日を待つばかりになりました。

いよいよ八月十日、鎌倉中央公民館(駅
前)に於て鎌倉市吟詠連盟創立記念大会の幕
あけとなりました。参加は日本祥風・吟道館
・青嵐・吟友・湘南・碩心の六団体です。
暦の上での秋とは名のみで、朝から真夏
並みの暑さの中、役員九時集合、用意万端
整えて九時半頃には早くも会場満席。開幕
を今や遅しと待つ舞台の緞帳(錦織)は金
地に菊と、垣根・小鳥が群れ飛び、平安文
化を象徴する気品と風格に満ちて、さすが
鎌倉の感が深い。十時の開始ベルが鳴り韻
くと一瞬緊張する。開会に先立ち、富士山

の大合吟のあと一般吟がスタートした。

吟の合間にふと来賓席に目を移すと、松
井岳洋先生のお姿があり、大変嬉しく思っ
た。お忙しい先生は時間を作って駆けつけ
て下さり、お祝いの挨拶のあと「鎌倉哀史」
を吟じ、その味のある吟に、会場は水を打
ったように静まり皆聞き惚れました。その
後他への用ありで十一時半頃席をたゞれま
した。

一時より発足記念式典に移り、市長代理
の祝辞を戴き、次に常盤岳湘先生の「鎌倉
にこのような会が出来て本当に嬉しい。吟
は健康のためばかりでなく、人と人との和
にもつながるので、益々輪を拡げて欲しい」
との話があった。流派は違っても仲良く勉
強してほしいとの市長よりの祝電が読みあ
げられ式典は終わりました。

そのあと熱吟が続き、会場は私語一つな
く、見習う点がありました。創立大会故何
事も初めてで心配しましたが、無事盛会に
終りホッとしました。そして益々の連盟の
発展を祈りつゝ散会の別れを惜しみました。
最後まで御参加の先生方、本当に嬉しく
思いました。心から御礼申しあげます。



自然と人生 (八月)

夏去り秋来る

女郎花咲き、柿の実ほのかに黄ばみ、甘藷穂のさわさわと云う音を聞け。微雨はらはら降りて止みぬ。是れ今年の夏の季を送るの声なり。

八月廿八日

碩心会のあゆみ

写真提供のお願い

来年の五十周年記念吟道大会を意義あらしめるよう、プロ企画係として検討を行っております。特に古いアルバムに目を通していただき、碩心会の五十年の歩みに関して「コレワ！」というような写真がありましたら是非拝借したいと思えます。皆様の御協力を心からお願ひします。連絡は左記迄。

七五―一五五〇 中村幸岳

七三―四五八五 千葉颯岳

ネーム入り ネットタイの購入

大会等でお揃いのネットタイを着用したらという声があり、希望者は一括購入します。色・あざき色(教本二巻の表紙に似た色) 価・千五百円(希望者は早目に申込みの事)

見たま、聞いたま、

下山口支部 沼田 隆風

(ある日曜日の午後)

私達は民謡の会を結成して、毎週水曜日練習に通っている。ある時練習日に大雨が降ったため日曜日に特に練習日を変更してくれた。雀がチュンチュン鳥がカアアアお空にゃとんびがヒョロヒョロ...とやっていると、突然合吟が聞えてきた。どこかの教場かと聞けば、あそこが有名な悦ちゃんの所という。窓を開けて見渡せば、斜め百米位先の二階屋から聞えてくる。あゝ今度の温習会の合吟コンクールの一番も快った感じ...

(合吟コンクール)

下山口「勤学」四番目ということに早々にすませ、進行係として受付にすわっていた。番数も進み、矢嶋教場の、顔見知り美人の矢島佳子さんがきたので、又一位?かと聞いたら、「そうよ」とすどしい顔をして通りすぎていった。やっぱり戦う前から敵を呑み、またまた優勝に輝いた。

もう一つ今回は奇跡が起った。吟甫教場の二位入賞。下山口と同じ沼田先生の受持ちで、今日はうまくいったなと思っていた

らまさしく二位。おめでと。

(或る朝)

私は日課として、朝夕犬をつれて散歩に出る。家が葉山公園近くにあるので、一色お茶寮から大崩位の間までに限定される。

磯の上から吟声が聞えてきたのでしばし聞き入り、終るのを待ってその人の所に行き、どこかの会ですか、先生は誰ですかと質問をしてみた。すると昔海軍機関学校時代に習ったもので、先生は教官であり、特にないとのこと。木村先生のテープも持っているとのこと、今の詩吟みたいに小細工がないのでよかったとのこと。千葉(颯)先生がいついた軍隊詩吟で、声が大きければよかったです時代のものかも知れぬ。一色在住で健康のためにやっているとのこと。

(小さな幸福)

ホカホカする布団の中で手足をいっばいのばす
つくづく幸福だなあと思う
フィリップ、ザンボアングにて戦にやぶれ 生死をかけた山中逃避行
今でもわすれることはない
限りある命を大切にしよう

練吟メモ

○戦争中のこと。中隊長が兵に訓話をして
います。話の中で、二度ほど「べに一点」
という言葉が出ました。あれっと思いまし
たが、前後の関係から「紅一点」のこと、
察しました。その中隊長は、幹部候補生出
身の大尉でしたが、私はこの時のことをい
まもって忘れません。そして時々思ひ出し
ては、自分の戒めとしています。

○終戦後十年くらいのこと。勤めていた会
社仲間の一人ですが、これも話中に、きょ
う「しゅうどうめ」に遇って来たという。
「修道女」のこと、すぐ察しがつきました
が、この時も、言葉は気をつけなくてはと
思いました。女と女では、随分感じが違
いますね。話し言葉や用字用語は、十分注
意したいものです。

○詩吟の教本は、振り仮名がしてあるので
問題はありません。重箱の隅をつつくよ
うで感心しませんが、気をつけて見ると、
新教本でも読みの相違しているのが出て来
ます。ただし、これは間違いということでは
ありません。

(例一)
教本一・51P 「関東に向こう」

・74 「日に向う」

(例二)

教本二・73P 「笑って問う」

・74 「笑うて答えず」

○漢文の訓読は、漢文をわが国の文語法に
したがって読むわけですが、それには、俗
に「漢文口調」とよばれる独特の調子があ
ります。さらに、吟詠の場合は、吟詠上の
効果を考慮した読みとすることがあるよう
です。ですから、新教本に登載されている
詩歌は、(すべて振り仮名がついているの
で)もちろん教本通りでよろしいのですが、
新教本以外からとった漢詩等に対しては、
その読みは注意していた方が安全で
あるようです。

○例えば

1. 正気の歌 (文天祥)

仰いで見る浮雲の白きを

2. 文天祥の正気の歌に和す (藤田東湖)

萬古天皇を仰ぐ

3. 新体詩 建設の譜

富士の白雪を仰ぎ見つ

右の・字を、仰ぐ・仰いで・仰ぎと読んで
練習していますが、仰ぐ・仰いで・仰ぎが
正しい。仰ぐという読み方はありません。

(入会)

757 梅田可奈絵 逗子市久木六〇七一一

(真 澄) (電)〇四六八―七二―一四三

758 菅田光子 逗子市久木六〇六一四

(真 澄) (電)〇四六八―七二―一〇二四

759 (堀内・F) 以下略

760 小川清山(再) 葉山町上山口九四四

(上山口) (電)〇四六八―七八―一五八

761 黒川津磨 横浜市港南区港南台六一―一三

(大船B) (電)〇四五―八三―一〇三九〇

762 大塚一寛 横須賀市久里浜台二一四一五

(松 和) (電)〇四六八―四五―一〇六一

(退会)

7 下條亮岳(松 和) 52 加藤槍風(逗子A)

80 堀越松風(山ノ根) 208 菊地笑山(松 和)

682 鈴木桂子(逗子A) 683 小林秀子(逗子A)

夏休みを利用して大阪から来た姪が海辺
の夕焼けをみたいというので車で長者ヶ崎
へ。折しも日は水平線の彼方の山の端に沈
み空を赤く染め、中央に端麗な富士、そし
て右に丹沢、左に伊豆の連山がシルエッ
トとなっていくきり浮び、まるで絵のよう。
山頂近く旋回飛行の灯が一つ、右に左に動
き、こちらに向ってくると、トンボの目玉
のように輝いてみえる。久しぶりにみる夏
の夕景の何と素晴らしきことよ。